



十二月席句会作品集(令和六年十二月)

俳壇

花
水
木

俳句往来 百七号

令和六年度 横浜市退職小学校校長会 俳句部会 ③

俳句あれこれ

「花水木」の句を手にして「痛烈に批判する人」がいます。
「けなし」は誰にでも出来ますし、自由ですが
残念ながら私たちの俳句には辿り着けない方々です。
「花水木」の俳句は、学びあう、励ましあう、鍛えあう俳句です。

—— 記念句集 花水木(第Ⅱ集)あとがき より ——

シンプルな韻律の一句一章

顧問 前橋竹之

—— 心にひびく一句——(百六号より) ——

故郷の風の畳の昼寝かな 一雄

帰郷のおりの昼寝を一気に詠み下した一句一章の句です。一読してシンプルな韻律と情景が心地よく、ふんわりと読者の心を温めてくれます。

揚句は名詞と助詞「の」のみで、作者の感情を言葉にしています。その場の情景や情感が読み手に伝わってきます。中七の「風の畳」がいいですね。

下五の詠嘆の「かな」と強くひびき合っています。いかにも涼しげな座敷や和やかな家族の情景が目に見えます。

「シンプルさが逆に内容の飛躍や凝縮を生み、美しく力強い作品を生むことができます」。これは、絵本作家の言葉ですが、俳句も同じだと思いました。

十二月句会の作品 左隣は選者(☆は自薦)

作者名

奥多摩を渡る吊橋谿紅葉 たにもみじ

金雄

中澤・高橋定・川口・前橋・山本

月明かり三世の闇を照らし出す

美明

堀井

大歓声大展望の小春富士 伊豆の旅路に

福郎

荒井・前橋

望郷や学舎たずね秋うらら まなびや

尚之

☆山本・相澤・月田・吉野・堀井

音もせず飛行機過ぎる星月夜 よ

淳子

高橋郁・荒井・大石・川口・桑原・濱野・前橋

虫の声雨戸のあけしめそつとやり

映夫

☆小坂・鷺山・濱野・宮澤

手作りの形見のポーチ袖の露

和子

鷺山

木蔭出て木蔭に消ゆる秋の蝶ちよう

一雄

吉野・鷺山・荒井・桑原・堀井・前橋・山本

独鈷とっこの湯脛すねの白さや落葉降る

誠

高橋定・月田・野村・福田・大石

百合鷗まだ北国に佇むや

龍太郎

宮鳩の群れのいぎなふ七五三

竹之

相澤・吉野・中澤・福田・大石・濱野・宮澤

雲脚のいまだ疾く過ぎ野分かな

佳一

吉野

お茶するやとんぼも鋏に一休み

篤

相澤・吉野・高橋郁・高橋定・中澤・野村・福田・川口

小坂・濱野・前橋・宮澤

大山へ行き交ひし道からすうり

啓子

高橋郁・鷺山

だんだんと真っ赤真っ黄葉バス車中

正子

高橋定

秋茄子の咲く花すべて茄子となり

定雄

高橋郁

雨晴れて帰燕見送る母と子と

郁子

野村・桑原・堀井・山本

歯型ある鮎はブランド長良川

郁枝

☆高橋郁・野村・月田・荒井・川口

黒目よせ“あ”の声和する秋のうた

信子

☆中澤・小坂

秋入日子ども食堂窓大さ

信子

大石

紅葉もみじの葉繊細なる美冴さへ々と

美明

木洩れ日が紅葉を照らし紅一層

淳子

☆相澤・川口・小坂・宮澤・山本

秋深む何とか生きた老二人

尚之

中澤・堀井

独り占む黄葉もみじ銀杏いちじょうや日本晴れ

金雄

相澤・桑原・堀井・山本

秋の暮れ妻とウオーク久しぶり

映夫

散る紅葉河童と浸る露天風呂

福郎

☆福田・高橋郁・中澤・野村・鷺山・荒井・川口・桑原・前橋

一湾をとろりと染むる冬夕焼

竹之

相澤・高橋定・月田・吉野・中澤・福田・桑原・濱野・宮澤

星月夜戦火に散りし子の瞳

和子

高橋郁・野村・大石・小坂

台風の一樹枝折れ天神社

一雄

片足のガザの少女や虎落笛

誠

堀井・前橋・宮澤

シヤキシヤキの秋小松菜の甘さかな

定雄

高橋郁・吉野・中澤・野村・福田・小坂・濱野・宮澤

剪り取りて沈丁花の香薄くなり

佳一

大数珠をゆらして平癒祈る秋

啓子

☆野村・月田・吉野・鷺山・宮澤

キキツキー、^{もず}鴟よお前も独りかい

篤

☆荒井・高橋定

狂言師秋の月にも笑いとり

正子

相澤・前橋・山本

北の風白衣を纏いし富士の峰

龍太郎

山本

彼岸花名もなき武将の墓に咲く

荒井・川口・小坂・前橋

郁子

震災を乗り越え実る稲穂かな

高橋定・月田・野村・桑原・宮澤・大石・小坂・濱野

郁枝

流れ着く靴に吾子の名能登洪水

福田・高橋郁・高橋定・野村・桑原・小坂・荒井

和子

亥の子餅難除けてよと祈りつつ

い
なんよ

美明

☆川口・相澤・吉野・宮澤

酉の市売り手買い手の声盛ん

月田・荒井・濱野

淳子

店先におもちゃの猿が師走かな

尚之

福田

小雪舞ふ津波来るぞと山に逃げ

相澤・鷺山

郁枝

七つ八つこの飲み葉秋を越え

川口・堀井

映夫

日の光かをりががよふ蜜柑山

福田・桑原・小坂

金雄

冬富士背に俄合唱ハーモニカ奏

にわか

福郎

雉鳩の鳴くに目覚し今朝の冬

☆宮澤・相澤・中澤・川口・前橋・山本・大石・濱野

一雄

将棋せむ爺の王手に噫して

くさめ

誠

高橋郁・野村・前橋・桑原・山本・宮澤

木枯らしに踊っているか枯れ葉かな

佳一

茶の花の知覧に千の遺影かな

竹之

相澤・月田・吉野・堀井・荒井・宮澤・大石

紅葉の葉を舌で採るキリンかな

定雄

☆高橋定・中澤・桑原・山本

耳遠く後架は近しちやんちやんこ

篤

看護師に手際を学ぶ冬日向

啓子

福田・高橋定・高橋郁・月田・鷺山・堀井・宮澤・濱野

コロナ明け暖気に沸き立つ三の酉

龍太郎

☆鷺山・野村・小坂

生粉打ちもデパ地下にても早く売れ

☆桑原

正子

甥っ子の字で届きたる今年米

信子

福田・鷺山・高橋定・川口・荒井・大石

荷の届くたわわな柿の荷の届く

郁子

☆濱野

落葉風文士の宿の静寂かな

しじま

福郎

相澤・高橋郁・月田・吉野・鷺山・野村・堀井・荒井・桑原・山本

カサカサと枯葉の音も寒々し

せむぎこむ

美明

濱野

冬ふゆ薔薇色そうびをこらして身じろがず

淳子

中澤・大石

衣服だし捨てる見極め冬支度

尚之

高橋定・月田・鷺山・川口・濱野

子の学び熱く語りぬ冬茜

啓子

朝時雨ほのか色づく樽けやきかな

一雄

秋好日「三浦」の御魂に茶を立てり

正子

高橋郁・鷺山

庭の虫季節かわったとにぎやかに

映夫

小春空逆立ちの孫躍動す

誠

☆吉野・高橋定・月田・川口・小坂

明け六つのしづけさ十二月八日

竹之

☆前橋・福田・鷲山・堀井・荒井・桑原・小坂

墓洗う吾^{われ}今あるを思ひけり

和子

☆月田・吉野・中澤・山本・大石

千年を超えて観し月道長忌

篤

福田・相澤・中澤・野村・大石

辰年や三の酉あり火の用心

金雄

☆大石・福田・

青き空路地の静けさ花八つ手

佳一

☆堀井・山本・大石

文化の日冴える指揮棒初任かな

定雄

相澤

編集談話室

◇今回も、印刷業者に頼らず編集、打ち込み、印刷、全て手作りです。句会の選句を含む編集となり、編集技術も難しくなりますが、皆様の励ましを力として、幹事が協力して取組みました。十二月四日の席句会では、全句の中から特選句を選ぶ新しい試みもあり、俳句往来を楽しみました。皆様に百七号を届けられることを嬉しく思います。
(部長・高橋定雄)

◇ 五十年集えるが佳し納め句座 彌太郎

花水木第二句集の締め句です。六本木氏の逝去の報は、百号記念特別号編集の最中でした。柱が抜け、一時混乱しましたが、百号の発行がかないました。

今回、百七号、句座の息吹をお届けします。幸い、草創期の数名の方も健在、これからも「花水木らしさ」を大切にしたい句座を続けられたらと願っています。

発行 横浜市退職小学校長会俳句部

代表 高橋定雄

発行日 令和六年十二月吉日

編集・印刷 花水木百七号担当幹事